

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	千代田区五番町 5-6 ビラカーサ五番町 101
園名	ピノキオ幼児舎番町園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

科学

<テーマの設定理由>

コインの浮き沈み実験を行った際に、子どもたちがとても興味を示していた。
「なんで？」という疑問の声や自分なりに理由を考えていたことから、身の回りの「なぜ？」をきっかけに「試しにやってみる」という実験の機会を多く提供し、知的好奇心をさらに高めるため、科学をテーマに設定した。

2. 活動スケジュール

令和6年9月～令和7年3月まで実施 2週間に1回実施

- ① 水の中で浮く野菜・果物と沈む野菜・果物は何が違うの？ 実施日 9/25
- ② 皮ってなあに？浮かぶ皮と沈む皮は何が違うの？ 実施日 10/8
- ③ たまねぎのにおいは、形を変えるとにおいも変わるの？ 実施日 10/22
- ④ 擦った野菜や果物を混ぜて、一番においが残るのはどの食材かな？ 11/5
- ⑤ 果物を使ってバスボムを作ると、においはするの？ 実施日 11/19
- ⑥ 粉と水を混ぜると、粉の種類や量で感触は変わるの？ 実施日 12/6
- ⑦ 大豆ってなあに？ 実施日 1/30
- ⑧ 豆腐の色はどうして白いの？ 実施日 2/19
- ⑨ 粉と水を混ぜると、粉の種類や量で感触は変わるの？ 実施日 3/5

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためのどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

人数が少ないため、3歳児～5歳児一緒に活動を行った。

子どもたちが自分の考えや表現を、友達や保育者に共有しながら活動を行うことにより、保育者や友達との関わりを促した。

準備物としては毎回のテーマに合わせていき、様々な野菜や果物おろし器、スライサー、重曹や身近にある粉類など、子どもが探究したいものを揃えた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

子どもが日常で気になること、調べてみたいと思うことを中心に行った。具体的にはコインの種類によって浮いたり沈んだりはどうしてなのかが、初めの気になる事だった。その中で野菜や野菜の皮はどうなのか、野菜によって匂いが違うなら擦って見たら匂いの変化はあるのかなど、形や色、においなどに注目しながら活動を行った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

子どもたちは科学実験に強い興味を示し、意欲的に活動する姿が見られた。野菜の浮き沈みの実験では、浮くものと沈むものを分けてから実験を行った。結果が考えた事と違うと重さの問題なのか、形が違うからじゃないのかと、子ども同士・保育者と一緒に考察や仮説を立てながら、PCやタブレットで調べて進めていった。匂いの実験では、切り方や擦り方によって匂いが変わるのでとは仮説を立て、おろし器やスライサーなど子どもから使ってみたいとの声があった。



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

子どもたちが協力して実験を進める過程で、自然とコミュニケーションが生まれ、意見を交換する場面が多く見られた。このような探究活動は、単に知識を得るだけでなく、他者と協力し合う姿勢やコミュニケーション能力の発達にも寄与していることが確認できた。

また科学実験を行うことで、日常の不思議に思う事や「どうしてこうなるのか」を考えることが増え、その中で探究活動につながるがあった。

これらの気づきを通じて、今後の保育実践においては、子どもたちの発達段階に応じた探究活動を設計し、自己表現やコミュニケーション能力をさらに引き出すような環境づくりに努めたいと考えている。また、活動後の振り返りを積極的に取り入れ、子どもたち自身が学びを振り返る時間を大切にしていくことで、より深い理解と成長を促していきたいと思う。